

# 令和2年度 学校評価

秋田県理容美容専門学校

## 1. 学校の教育目的

美容技術を教授・指導し、専門的知識と技能を修得させ、美容師を養成する。

## 2. 学校の教育目標・育成人材像

- ・職業人として必要な学力・技術を身につけさせる。  
特に国家試験合格のための学力・技術の修得を目指す。
- ・社会人として必要な礼儀を弁えた人間を育てる。  
特に挨拶・言葉遣い、他人に対する心遣いを養う。

## 3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ①学生指導の強化

- a. 授業への意欲を高める
- b. 社会人となる為のマナーの向上（挨拶の徹底、言葉遣い等）

### ②学生募集活動の強化

- a. オープンキャンパスの検討（新しい取り組み）
- b. 高校訪問等での卒業予定者（高校生）への情報発信
- c. 学び直し、長期高度人材育成コース対象者の募集
- d. 効果的な宣伝方法の検討（TV・新聞・インターネット等）

### ③教員の質の向上を図る

- a. 研修会等への積極的な参加を図る
- b. 学生指導の方法や充実した授業内容について等、教員の意識向上を図る。

#### 4. 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) . 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 学校の教育目標・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・B 学校の教育目標・目的・育成人材像・特色などが 学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・C 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

##### (取組状況・成果・課題)

- A 学校として、明確に定めている。(前述1・2のとおり。)
- B 学校行事や説明会、入学後のオリエンテーション等で、本校の方向性について説明している。保護者においては、入学説明会や入学式にて必ず周知を図っている。
- C 業界の求める育成人材像に近づけるために、ガイダンス等を通して、毎年、数社の業界の先生等と意見交換・情報交換をしている。

##### (2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されて いるか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・D 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されて いるか	④	3	2	1
・F 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

##### (取組状況・成果・課題)

- A・B 本評価冒頭の目的、目標を軸とし、学校の方針、計画等、教職員間で協議を重ねている。
- C 運営組織・意思決定機能に関しては、学校が行う全ての事業における決定権限は、稟議書により、校長・理事長の承認により、明確になっている。また、理事会の決議を必要とする案件等は、議決を経て適正に決定している。
- D 問題なし
- E Cと同様、校長・理事長により、承認決定が明確になっている。また、理事会・評議員会による決定が必要な事案は適切に意思決定がなされている。
- F 学生に関する管理(学籍・時間割・成績・出欠・健康管理等)を一元的に行っている。外部への情報漏洩がないよう整備がとられている。

(3) . 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 教育目的等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・B 教育目的・目標、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・D 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・E 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・F 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・G 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・H 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A・B 教育目的・目標や学校規定に定められている修業年限、また、教育到達レベルや学習時間の確保においては、実施方針等で明確に定められている。特に教育到達レベルにおいては、専門スキルに応じて、目標を設定し、検定・資格取得等で明確に設定している。
- C 各教科の指導計画案（シラバス）に添って策定がなされている。
- D 毎年1週間の期間を設け、関連分野の市内数社に依頼し、2年生のインターンシップ・サロン実習を実施し、評価を得ている。各提携先サロン様のご厚意により生徒にとっても有意義なサロン実習となっている。今年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら行うことができなかったが、店舗経営者講師による講習会等での発信で対応した。
- E 学則・内規等で明確に定められている。
- F 特に色彩検定、JNEC ネイリスト技能検定試験、JNA ジェルネイル技能検定試験、エステティックディプロマ、メイクアップディプロマに対して単位授業としてカリキュラムを組んでいる。生徒の検定合格率に関しては、その年によってバラつきが見られる。検定試験については、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、時期の変更等があり、計画的通りとはいかなかったが、今年度の取得率は、高い評価を得た。今後も継続性をもって全員が資格取得できるよう指導に力を入れたい。
- G 規定条件に見合うよう業界の経験年数、勤続年数を積んでいる教員数の確保ができています。  
(常勤・非常勤共に)

(取組状況・成果・課題)

H 校外の研修は、遠方での研修が多く、頻繁に参加することが困難なため、校内の研修に力を入れたい。実技に関しては、毎年、定期的に校内研修を行っている。また、国家試験対策として、教員間でのズレが生じないように、細部の確認等を十分に協議しているが、その他のことに関しての研修の機会がほとんどないので、校外で受講した研修の報告会を行いながら、全教職員の能力開発に努めたい。

今年度に関しては、ほとんどの研修が、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。ただし、リモートでの講習会等を受ける機会があった。

今年度の参加したリモート研修

- ・令和2年7月15日(水) JNA日本ネイリスト協会 総会
- ・令和2年11月4日(水) JNAジェルネイル検定認定試験官養成講座

<参考>令和元年度に参加した校外研修

- ・7月 日本理容美容教育センター主催 教員資格認定研修会
- ・8月 JNA ジェルネイル技能検定「初級認定試験官」養成講座
- ・9月 日本理容美容教育センター 東北地区理容美容学校教職員研修会
- ・10月 独立行政法人 日本学生支援機構 業務研修会
- ・10月 全国専修学校各種学校総連合会 東北ブロック大会
- ・2月 日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション指導者養成研修会

(4) . 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・A 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・B 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・C 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

A 毎年2年生の4～5月に集中的にガイダンスを行っている。昨年度は異業種への進路変更等がみられたが、今年度から、ガイダンス等を受けもつ媒体を通して、同分野の他校との合同就職ガイダンスを行った。当初の予定から、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、変更がなされたが、県内サロンに於いては対面ガイダンス、県外サロンに於いてはリモートガイダンスを執り行うことができた。このガイダンスにより、生徒の就職に結びついたとの報告があり、今年度も100%の就職率を達成することができた。(全て美容室関係となっている。) 年々減少している生徒数＝業界全体も理美容師が減少している現状において、各サロン様にも協力をいただき、会社説明だけでなく、サロン現場の生の声を聴くことにより、理美容業界の現実に触れたり、就職後のイメージを身近に感じたりすることが、就職への意識改革となるのではないかと考えている。就職に向けて意識を持たせるよう指導していきたい。

(取組状況・成果・課題)

B コロナ禍において、各検定の延期が余儀なくされたが、主となる検定は認定校となっていた為、行うことができた。今年度の検定内容は次の通りである。

11月 AFT色彩検定(3級) 合格率 95%

12月 JNECネイリスト技能検定試験(3級) 合格率 100%

3月 JNAジェルネイル技能検定試験(初級)受験(結果4月)

国家試験については、昨年、東北の美容学校で唯一100%合格を達成することができたことは大きな自信につながった点である。ここ4年程、筆記試験は100%合格を達成している。これについては、指導体制が確立されていると考える。今年度も引き続き、全員合格を達成できるよう指導を強化して行った。

C 年々退学率は低減しているが、今年度は1学年で3名の中途退学者が出てしまった。理由は進路変更や目的意識の喪失が主な原因となっているが、近年の傾向として、心理的な要因が長期欠席につながり、他学生との実力の差が出てしまい、それによる意欲喪失も1つの要因となっている。対応としては、各学年に担任教員を配置し、ホームルーム、個人面談等を通して、学生の問題の早期発見に努め、その都度、何回かカウンセリングを行い、保護者とも連絡を取り合いながら、適切に対応しているが、他の起因も模索しながら職員間での検討を行いたい。

D 就職先より卒業生の情報を得られている。ガイダンス等を通じ、就職先との交流もなされている。また、ほとんどの卒業生が学校と連絡をとってくれるため、情報を得られる体制となっている。

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・B 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・C 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・D 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

A・B 担任制をとっているため、個人面談、教頭を交えた三者面談等で対応している。

就職支援に関しては、2年生の4月～5月に企業と連絡を取り合い、校内でのガイダンスを行っている。また、今年度においては、県外企業のリモートガイダンス等で対応を行った。特に県外希望の生徒に関しては、企業の話を直接取得できるので、交通費などの無駄がなく、就職活動を行うことができる為、今後も継続していきたい。

C 学生の健康管理としては、週1回、カリキュラムとして体育の授業を通して、健康増進を図っている。他、年1回の健康診断を行っている。

D 保護者との連携体制に関しては、主に担任が適宜連絡をとっている。特に、朝の連絡がない欠席・遅刻者に対しては、担任から学生へ、その都度、連絡を取り、欠席が継続する場合は保護者への連絡を欠かさず行っている。また、学期毎に成績表や学校からの連絡案内等を保護者宛に通知し、連携体制の構築に努めている。

(6) . 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・C 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 当該専門学校における施設・設備等は、美容師養成施設規則に則った施設・設備となっている。今年度は、9月に水害被害を被ったため、1Fサロン室の設備を新調した。これにより、生徒に対しても最新の機器を提供できている。
- B 学校閉鎖期間や学校行事の日以外、生徒が自主練習できるよう放課後・土曜日・長期休暇等学校を開放している。インターンシップに関しては、県内の企業の協力を得て、ここ数年、2年生が5日間のサロン実習を行っている。就職へ向けての大きな自信につながっているようだ。海外研修に関しては、10数年前よりヨーロッパのカット研修を主として行ってきた。1週間の研修ではあるが、普段とは違う異国での体験は、今後の美容人生において、とても有意義な研修となっているようだ。学校としては、生徒にとって自信となったり、有意義な経験となるよう検討を重ねながら、様々な経験ができるような機会を今後も提供していきたいと思っているが、今年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての学外行事が中止となってしまった。特に海外修学研修については、とても楽しみに入学してきた生徒が多い為、残念な結果になってしまった。
- C 防災対策は、消防計画に基づき、点検・検査を実施し、火災・事故等を予防するとともに、自衛消防組織を編成している。本計画により、火災・地震発生時の初動活動・避難誘導等に対応できるよう役割分担も明確になっている。また、毎年、同法人の高校と一緒に大規模な避難訓練を行い、災害に対して万全を期している。

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・C 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 学生募集活動は、秋田県専修学校各種学校協会の定めた募集時期に関するルールを遵守して実施している。学校のHP、パンフレット等を通し、適正な広報となっている。県内の高校を訪問し、高校の先生からいただいた意見も参考にしながら、募集活動に活かしている。また、学校で決定した媒体を通して、高校生に直接説明ができているのは大きな成果となっている。その他、昨年よりInstagramの発信を強化している。発信間隔が空きすぎないように努め、社会のニーズに合った発信ができるよう今後の広報活動に活かしていきたい。
- B 成果の伝達については、ガイダンスや体験入学等を通して、教員・生徒が忌憚のない意見を述べている。特に体験入学時、在校生と体験者（高校生）間での意見交換等については、とても参考になる事項が多い。得られた意見を募集活動がさらに良くなるよう、もっと活用していきたい。
- C 入学金・教育充実費・授業料・教材費等近隣県の同分野である他校と照らし合わせても妥当なものとなっている。

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・C 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・D 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A・B・C・D 特に問題なし。毎年、財務に関して問題はない。継続していきたい。

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・D 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 法令・専修学校設置基準・養成施設指定規則等の遵守と適正な運営に努めている。
- B いかなるデータも学校外への持ち出しは禁止している。また、外部への漏洩はもちろんコンピューターのウイルス感染等にも細心の注意を払っている。
- C 毎年、自己評価を行い、職員との共通認識の元、改善点を検討し、対応を図っている。すぐに解決しない問題があれば、少しずつ対策を施していく。
- D 今年度より自己評価結果の公開については、ホームページで公開している。また、学校関係者評価を実施し、学校ホームページ上に掲載し、公表している。

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・B 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

- A 各方面より依頼のある社会的活動に対してはできる限りの対応をし、支援している。企業からの依頼に関して、学生の希望者を募り、美容業のPRを兼ねて、ボランティア活動を幅広く行っている。学生にとっても、将来に向けて、とても良い経験となっている。今年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、外での活動は、まったく行うことができなかった。
- B 公共職業訓練に関しては、H22年から実施している。約80人の受講者を受け入れている実績がある。昨年度より2年コースの委託訓練も実施している。昨年、2年コースに入学した生徒がこの度、無事に卒業を迎えた。就職も順調に決まり、これから美容業界で活躍することを期待したい。今年度は残念ながら、2年コースの入学者はいなかった。また、短期の公共職業訓練（ネイル科）は、これも新型コロナウイルス感染症の影響により、開校することができなかった。前年度まで徐々に資格取得率、就職率が非常に良かったこともあり、とても残念な結果となった。